

學名ヲ訂正シタノトソレガ全然一致シテ居ッタノデ私ハ頗ル愉快ヲ覺エ又興味ヲ感ジタノデアル

○東京ノ天然紀念物保存會ニ對スル多數人士ノ感想 (50頁ヨリツツク)

▼公憤ガ私情ヲ蹴飛バシタ此記事ニ就テ私ハ若シカスルト永イ間何ノ波瀾モナカッタ友情ガ或ハ動搖シハセヌカト懸念センデモナイガ然シソコハ大義、親ヲ滅スト謂フ譯デ今私ガ一タビ此様ニ書テ(他ノ人々モ言ヒタイ書キタイハ山々デアアルガ種々ノ情實ガアツテ差控テ居ル、ソレヲ私ガ一人デ引受ケ憎マレ役ヲ勤メルノダ)其眞相ヲすつば抜キソレヲ世ニ明ニスルコトガ今後却テ此事業ヲ發展サス爲ニ有益デアラウト信ズル(すつば抜レタト言ツテ腹ヲ立テルヤウナ小人物ナラテンデ物ニナラン、ソコハ度胸ヲ大キク見セルニ限ルネ)、當局者ガ此會ニ對スル私等ノ感想ヲ玩味シ爲ニ時弊ガ救ハレタナラ我日本ノ本事業ノ爲ニ眞ニ萬歳ノ至リデアアルガ若シモ頑冥ニモ偏見ヲ固執シ他ノ忠言ヲ納レヌトナレバ當ニ舉ルベキ十ノ功績モ二三デスムヤウナ結果ニ了リ世間カラハ植物方面ノ鼎ノ輕重ガ問ハレル様ニナルノハ必然デアアル、已ニ今デモ兎角ノ非難ガアルデハナイカ(了)

○斷枝片葉 (其十五)

牧野富太郎

●筑前ノ無名木

筑前糟谷郡立花村邊ノ或ル神社ニ昔カラ誰レモ其名ヲ知ラヌト唱フル樹ガアル先年田村利親君ガ其枝葉ヲ携ヘ歸ッタヲ見ルニ其レハばくちのき (*Prunus macrophylla* Sieb. et Zucc.) デアッタ

●信州ノ『名無シ木』ト『神代櫻』

信州上水内郡芹田村ノ田側ニ『名無シ木』ト呼ンデ昔カラ名ガ知レヌト云フ樹ガアル先年信州ノ矢澤米三郎君其他同好ノ士ト戸隱山行ノ途次行イテ之ヲ實見シタラソレハ信州邊デハ珍シイあさにれ (*Ulmus parvifolia* Jacq.) デアッタ其序ニ其隣リノ芋井村ニ有名ナ『神代櫻』ヲ見タガソレハ東あづまハ

がん即チ江戸ひがん (Prunus Itozakura Steb. var ascendens MAKINO.) デ陸中盛岡ノ名木『石割櫻』ト同ジ種類デアッタ ●出雲ノ苜蓿 島根縣立農事試驗技手高橋又三君ノ『苜蓿ト其栽培法』ニ據レバ苜蓿ヲ同

州デハ田草、たう草、たび草、こやし入らず、されんげト呼ンデ居ル、又同州デ其栽培ノ濫觴ハ天保八年ニ山崎夫八郎天明六年ニ綴川郡高濱村大ガ出雲大社ノ東ニ屹立セル彌山綴川郡デ見付ケ植エハジメタト云フコトデアル、明治年間ニ大苜蓿ヲ選出シタ、全體大形、無刺苜蓿明治四十五年大苜蓿カラ選出シタ、莢ニ刺ガ無イノ二新品ガ出来、大正年間ニ紫葉苜蓿大正三年普通小苜蓿中ニ偶

然、一株出来後繁殖シテ居ノ一新品ガ出来タ ●仙臺ノ伽羅の木 陸前仙臺ノ政岡ノ墓ノ傍ニもくれん科ニ屬スル辛夷 (Magnolia Kobus DC.) ノ大木ガアル同地デハ之ヲ伽羅ノ木ト呼ンデ居ル是レハ多分彼ノ仙臺萩ノ仙臺様ガ伽羅ノ下駄ヲ履カレタト云フ事カラ此香ノスルこぶしヲ伽羅ノ木ト呼ンデ殊更ニ撰ンデ之ヲ政岡ノ墓ノ側ニ植エタモノデハナイカト思フ、ソレトモ『用藥須知』後編卷ノ二ニ據レバこぶしヲ「俗ニ伽羅ノ油ニ入ル」トアルカラ其レ故此樹ヲ伽羅ノ木ト呼ブ様ニナッタノ歟、然シこぶしト伽羅トハ全ク似テモ似ツカヌ別ノ種類デ伽羅の木ハ彼ノ沈香ノ取レル常緑ノ喬木デ印度ニ産シ Aquilaria Agallocha Roxb. ノ學名ヲ有シぢんちゃウゲ科ニ屬スルモノデ日本ニハ産シナイ ●きささげノ莢ハ果シテ食ヘルカ きささげハ Catalpa ovata G. Don (= C. Kaempferi Steb. Et Zucc.) ノ學名ヲ有スル落葉樹デ原トハ支那カラ來タモノデアル松岡玄達著『用藥須知』續編卷ノ二ニ「楸 ヒサギ キサ、ゲ ハブテコブラト云ハブテコブラハ蠻名ナラン此木サ、ゲノ如キ莢ヲ結ブサ、ゲノ代ニ料理ニ用ユルナリ」ト書イテアルガ之ヲ料理ニ用ウルトスレバソレハ多分京都デアラウト思フガ然シ今日デモ亦果シテサウデアラウ歟不明デアアル、近來民間デ此莢ガ胃癌ニ効クト稱シテ用ウル人ガアルガ果シテ効ガアルカ否カ是レ亦頗ル疑シイノデアアル ●しらきノ實カ果シテ菓子トナルカ し

らさハたかたうだい科の落葉樹デ我邦諸州ノ山中ニ多ク生ジ鳥白木即チなんさんはゼト同屬デ Sapium japonicum Pax Et K. Hoff. ノ學名ヲ有スル『用藥須知』續編卷ノ二ニ此樹ノ果實ヲ菓子トスルコトガ出テ居ルガ

コレガ果シテ菓子トシテ食シ得ベキ歟頗ル疑ハシイ即チ同書ノ文ハ「婆羅得 和名シラキ又名コクドノ菓子ト云フ此ノ實ノ油ヲ自鳴鐘ノクルマニ塗ル粘ラズシテ良シ又其ノ實ヲ炒リテ菓子ニスルナリ」デア
●八
升豆力將タハ丈豆力 黎豆ト稱スルモノガアル學名ハ *Géizolobium Hassjoo* Piper Et Tracy. デアル從來此

豆ヲはつしようまめト呼ンデ居ルガ是レハ多分八升豆ノ意デアラウト思フ然シ『和漢三才圖會』卷ノ第四百四ニ之ヲ八丈豆即チ八丈まめト記シ「蓋シ初メ種ヲ八丈島ヨリ得ルカ未ダ詳ナラズ」漢文ト注シテアル私ノ考フル所デハ此八丈島カラ來タデアラウト云フ説ハ或ハ眞デナイカト思フソレハ此植物ガ原ト暖地ノ産デアアルカラデア
ル故ニ我邦デモ往々之ヲ西南ノ諸州ニ見ルノデアアル然シ普通ニハ作ツテハナクタゞ好事ノ農家ガ之ヲ栽テ居ル
ニ過ギナイ又之ヲ八升まめト稱ヘバ蔓上ニ澤山ノ豆ノ收穫ガアルハズデアアルガ然シ其レ程豐富ニハ莢ガ著カナ
イ其レ故八升ノ名ハ餘リニ仰山デアアル然シ肥前デハせうまめト呼ブトノコトカラ考フレバ或ハ八升まめガ本
當カモ知レナイ、ソシテ此レニハ尙別ニ錫杖まめ、おしやらくまめ、八里半（九里）ニ、十里まめ、なるこまめ
莢ガ熟スル後風ガ吹ケバガ、ラガラト鳴ルユエ名クル、天竺まめ、藤まめ、葛まめ、せんごくまめノ名ガアル莢ハ嫩ク柔カナル時煮テ食スル、
東京帝室博物館所藏ノ『本草綱目啓蒙』ニハ「此モノ蔓極テ遠ク延引カ故ニ八里豆等ノ目ヲ呼ベリ凡種ル法刀
豆ニ異ナラズ肥土ニ養バ多ク實ナル一枝ニ莢角數十ヲ結ブ角熟テ豆ヲ採リ煮テ汁ヲ出シ再醬油モテ煮皮ヲ剥
テ食フ也」成形成形圖說ニ云リ 亡羊先生云京ニハタマタマ栽ルモノアリ莢モ嫩ナルトキハ食用ニナルナリ 莢ニモアリ嫩ナレドモ恐ハ食ニタヘザルベシ豆モ味甚ノ書キ入レガアル ●藥袋紙ノ染料 いばら科ノ常綠樹ニりんぼくと云フモノガアル一名ハほか
のき、ひめひいらぎ、かたざくら、あをかし、ひらぎかし、たてぎデ學名ハ *Prunus spinulosa* Sieb. Et Zucc.
ト稱セラル此樹ニ就イテ明治十一年九月十六日ニ田中芳男先生ノ手記シタモノヲ見ルニ『緒方道平ヨリ申來ル
ニ伊豆狩野邊ニテ「タデ」ト唱ヘ藥袋紙ノ染草ニナルヨシ村民話ナリ試ルニ滋味モアリ云々』トアッタ
●烏龍茶ノ名ノ起原 明治二十一年ニ出版トナッタ上野專一氏編纂ノ支那貿易物產字典ニ烏龍茶ノ起原ノ記

事ガアルノデ今之レヲ抄出スル『Oolong. 烏龍』

ウーロン
烏龍

此茶ノ名號ヲ烏龍ト云フ由來ヲ聞クニ福建省建寧城ト水吉ノ

間ニ小湖ト云ヘル一小地アリシガ此地ニ住メル茶栽培人ニ蘇姓アリ其茶樹中ノ一本ニ常ニ異ナル香氣ヲ有スル葉芽ヲ發シケレバ蘇氏ハ之ヲ大切ニ看護シ毎日々々其結果如何ト注目セシガ或日其木ノ身幹ニ一疋ノ黑蛇ノ盤居スルヲ發見セシガ其后チ數日間退去セザリシト依テ此レヨリ其木ヲ黑龍ト名ケタリト云』

●坊間二

賣ル美男かづら

坊間ニびなんかづらト呼ンデ丈ノ長イ木ノ薄片ヲ賣ツテ居ル取ツテ水ニ漬ケルト粘液ガ出

ルノデ之レヲ女ノ髪ヲ梳ヅル時使用スル此レハ彼ノ昔同ジ目的ニ用キタさねかづら一名びなんかづら即チKadsuma japonica Dun. トハ全ク別ノ者デ多分クす科ノたぶのき屬 (Machilus) ノ者デアラウト思フ支那ノ

廣邊東ノ産デ廣東ノ市中デハ之レヲ創^{クラフ}ツテ製シテ居リ其名ヲ包花木ト呼^{はつふ}ブトノコトデアル粘柴ト呼^{はつふ}ブノモ同ジ品デアルガ此粘柴ヲ我たふのみ (Macilus Thunbergii Steb. Et Zucc.) ニ充テ、居ル人モアル若シ之レガ正

當デアルトスレバ茲ニ包花木ハたぶのきデアルト謂ヘルガ果シテサウスルノガ穩當デアルカ否カ尙ホ後考ヲ要スル問題デアル

●百人一首ノ歌ニアルさねかつら 三條右大臣ノ歌、名にしおはざ逢坂山あふさきのさねかつら

●百人一首ノ歌ニアルさねかづら

三條右大臣ノ歌、名にしおはゞ逢坂山あふさかのさねかづ

ら人にしられてくるよしもがなノ中ニアルさねかづらハびなんかづらノコトデ古ヘ又之レヲさなかづらト稱シ
タ之レヲさねかづらト云フ譯ハ其實ガ奇麗ナカラデさねハ即チ實ノコトヲ云ツタモノデアル

●金香蘆

のぼたん科中ニひめのぼたん即チ *Osbeckia chinensis* L. ガアツテ支那、日本ニ産スル、西

●**金香蘆**

のぼたん科ニひめのぼたん即チ *Osbeckia chinensis* L. ガアツテ支那、日本ニ産スル、西暦千七百七十一年ニ公ニセルペーター、オスベック氏ノ書ヲ見ルト本品ノ記事ヲ載セ其圖傍ニ金香蘆ノ漢名并ニ *Kom hoeng-Looa* or *Goldrose feather* ナル發音并ニ其英譯名ガ記シテアル改訂植物名彙漢名之部ニハ此植物ニ金石榴、金錦香、柳葉花、蘆柳葉花ノ名ハ出テ居ルガ此金香蘆ノ名ハ見エテ居ナイ

●前號正誤

○口繪、池野成一郎君肖像下ノ Agriculture ニ、アルベシ

○43. 頁、九行 Earth-pee, Earth-nut < Earth-pee, Earth-nut

○(45頁、八行

著者ハ著書